

越谷市地域公共交通網形成計画の中間評価（案）

平成28年3月に策定した越谷市地域公共交通網形成計画（以下、「計画」という。）では、その計画期間である平成28年度から平成32年度までの5年間の中間評価年（平成30年度）、最終年度（平成32年度）の2時点において、実施状況を確認し、事業の評価と改善を行うこととしています。

このことから、計画策定から3年目の中間年度にあたる本年度においては、計画に位置付けた実施事業の進捗状況、検討・協議状況の確認等を行うものです。また、計画に位置付けた目標の評価指標値についても確認するものとします。

1 実施事業の進捗状況、検討・協議状況等について

事業別に、評価シート（別紙参照）を作成し、実施事業の進捗状況の確認、検討・協議事項の確認等を行った。

事業1：公共交通網の形成事業

事業2：鉄道や路線バスを利用しづらい地域のサービス改善事業

事業3：公共交通を持続可能なものとするための仕組みづくり事業

1 実施事業の進捗状況、検討・協議状況等について

事業1 公共交通網の形成事業(事業進捗等)の評価シート				
事業区分	現状と改善	計画策定時	平成28年度	平成29年度
1-1 バス路線の維持・充実	市では、バス路線の維持・充実のため、市民の皆様へ利用促進について広報こしがや等にて啓発活動を行っている。 しかしながら、現時点では、バス利用者の減少やバス運転手の不足により、株式会社ジャパントローズが運行するバス路線(3系統)が平成30年7月1日より運休しているため、市内のバス路線の系統数は、81系統となっている。 今後も、「バス路線を乗って・守り・育てる」ことの重要性について、引き続き、市民の皆様への啓発活動を行い、バス路線の維持・充実に向け取り組んでいく。	○市内のバス路線の系統数 :81系統	○市内のバス路線の系統数 :83系統	○市内のバス路線の系統数 :84系統
1-2 ノンステップバスの導入促進	市では、平成12年度よりノンステップバスを導入するバス事業者に対し、補助金を交付しています。 平成30年度は、ノンステップバス(小型3台)を導入する朝日自動車株式会社に対し、補助金を交付する予定となっている。 今後も、引き続き、ノンステップバスを導入するバス事業者に対し、補助金を交付しバス車両のバリアフリー化を推進していく。	○ノンステップ化率 :79.20% 路線バス台数:125台 ノンステップバスの台数:99台	○ノンステップ化率 :84.00% 路線バス台数:125台 ノンステップバスの台数:105台	○ノンステップ化率 :84.68% 路線バス台数:124台 ノンステップバスの台数:105台
1-3 バス停利用環境の改善	市では、平成28年度以降、バス停周辺の歩車道境界ブロックの一部撤去を実施するなど、誰もが利用しやすいバス停利用環境の改善を実施している。 平成30年度は、越谷市役所をバスまちスポットとして新規登録し、今後も、引き続き、バス停利用環境の改善を実施するとともに、バスまちスポット等の登録拡大を推進していく。	○バスまちスポット等の登録施設 :8施設(登録数)	○バス停利用環境の改善工事 :バス停(2箇所) ○バスまちスポット等の登録施設 :22施設(登録数)	○バス停利用環境の改善工事 :バス停(5箇所) ○バスまちスポット等の登録施設 :27施設(登録数)

○事業1 公共交通網の形成事業(事業進捗等)の評価シートは、次ページに続く

事業1 公共交通網の形成事業(事業進捗等)の評価シート

事業区分	現状と改善	計画策定時	平成28年度	平成29年度
1-4 サイクルアンドバスライド駐輪場の整備	平成30年7月1日付けでバス路線が休止となったことに伴い、サイクルアンドバスライド駐輪場(民間施設)1施設を休止としたため、現在、市内のサイクルアンドバスライド駐輪場は、既存公共施設の既設駐輪場の8施設となっている。 市では、サイクルアンドバスライド駐輪場として位置付けたことを周知するため、既設駐輪場に案内看板の設置を行うなど、バス利用者の利便性向上及びバス路線の利用促進に努めている。 今後は、サイクルアンドバスライド駐輪場の周知を図るため、広報こしがや等にて情報提供を行っていく。	○サイクルアンドバスライド駐輪場の整備箇所 :0箇所	○サイクルアンドバスライド駐輪場の整備箇所 :9箇所(登録数)	○サイクルアンドバスライド駐輪場の整備箇所 :9箇所(登録数)
1-5 交通結節点の強化(ダイヤ接続や案内等)	鉄道駅の改札付近における案内表示板の設置については、今後、関係者との協議を進め、乗り継ぎの円滑化に向け取り組んでいく。	なし	なし	なし
1-6 駅のバリアフリー化(内方線付き点状ブロックの設置等)	市内の鉄道駅8駅のうち、内方線付き点状ブロックが整備されている駅は、7駅となった。(せんげん台駅における内方線付き点状ブロック整備事業を実施した東武鉄道株式会社に補助金を交付した。また、東武鉄道株式会社により「越谷駅」及び「蒲生駅」において、内方線を整備した。 さらに、平成30年度は、北越谷駅及び新越谷駅におけるホームドア整備事業(設計委託)を実施する東武鉄道株式会社に対し補助金を交付する予定である。 今後も、引き続き、ホームドアを設置する鉄道事業者に対し、補助金を交付し、駅のバリアフリー化を推進していく。	○内方線付き点状ブロックの整備済み箇所 :大袋駅、新越谷駅、南越谷駅、越谷レイクタウン駅の4駅	○内方線付き点状ブロックの整備済み箇所 :大袋駅、新越谷駅、南越谷駅、越谷レイクタウン駅の4駅	○内方線付き点状ブロックの整備済み箇所 :既存 4駅 :新規 3駅(せんげん台駅(補助)、越谷駅、蒲生駅の3駅) :合計 7駅

事業2 鉄道や路線バスを利用しづらい地域のサービス改善事業の評価シート				
事業区分	現状と改善	計画策定時	平成28年度	平成29年度
2-1 バス路線の新設	<p>平成29年度は、大袋駅西口線の車道部の暫定開通にあわせ、計画に位置付けた「大袋駅西口を発着とする路線」の早期実現に向け、大袋地区の関係自治会及び朝日自動車株式会社、市の3者による公共交通地区懇談会を開催した。そのなかで、地域の皆様によるバス停地先権利者への説明、市によるバス停利用環境改善工事を実施したことにより、朝日自動車株式会社により平成29年11月1日から、計画に位置付けられた大袋駅西口を発着とする路線バスが開設された。</p> <p>今後も、公園事業等の進捗に併せ、バス路線の新設に向け、関係者による公共交通地区懇談会を開催し、早期実現に向け取り組んで行く。</p>	<p>○せんげん台駅東口～東埼玉テクノポリス線の開設(平成27年10月1日。<u>平成30年7月1日休止</u>)</p> <p>○南越谷駅南口～ひのき荘線の開設(平成27年12月1日)</p>	<p>○越谷駅東口～幸町入口線の開設(平成28年4月1日。幸町入口を終点とする路線)</p> <p>○越谷市立病院～越谷レイクタウン駅北口線の開設((平成28年4月1日。越谷市立病院を起点とする路線)</p> <p>○せんげん台駅東口(上間久里循環)線の新設(平成28年4月1日。<u>平成29年1月4日休止</u>)</p> <p>○南越谷駅南口～花田第四公園入口線の開設(平成29年9月1日。花田第四公園入口を終点とする路線)</p>	<p>○せんげん台駅～大袋分署線、せんげん台駅～大袋駅西口線の開設(平成29年11月1日)</p>
2-2、2-3 関係者の協働による新たな公共交通の導入に向けた取組(モデル地区、展開地区)	<p>市民との連携による新たな公共交通の仕組みの形成(ガイドラインの作成)に向け、新規交通検討地域において、公共交通地区懇談会を開催し、今後も引き続き、市民、市等の役割分担や受益者負担割合等の具体化に向け取り組んで行く。</p>	<p>○公共交通地区懇談会等の開催回数：6回</p>	<p>○公共交通地区懇談会等の開催回数：7回</p>	<p>○公共交通地区懇談会等の開催回数：0回</p>

事業3 公共交通を持続可能なものとするための仕組みづくり事業(事業進捗等)の評価シート				
事業区分	現状と改善	計画策定時	平成28年度	平成29年度
3-1 市民との連携による新たな公共交通の仕組みの形成(ガイドラインの作成)	市民との連携による新たな公共交通の仕組みの形成(ガイドラインの作成)に向け、新規交通検討地域において、公共交通地区懇談会を開催している。 形成計画では、市がモデル地区を選定し、先導的に新たな公共交通の導入に向け取り組むとしていることから、平成30年度は、モデル地区として、「新方地区」を選定し、市民、市等の役割分担や受益者負担割合等の具体化に向け、引き続き、公共交通地区懇談会を開催するなかで、ガイドラインの作成に向け取り組んで行く。	○公共交通地区懇談会等の開催回数 :6回	○公共交通地区懇談会等の開催回数 :7回	○公共交通地区懇談会等の開催回数 :0回
3-2 案内マップ、利用促進ツールなどの作成	市内の鉄道、路線バス、タクシーなどに関する総合的な案内(こしがや公共交通ガイドマップ)を作成し、配布等を行うことで、公共交通の利用促進を図っている。 今後も、引き続き、分かりやすいガイドマップを作成していく。	○こしがや公共交通ガイドマップの作成 :7,000部	○こしがや公共交通ガイドマップの作成 :10,000部(平成29年3月版)	○こしがや公共交通ガイドマップの作成 :10,000部(平成30年3月版)
3-3 モビリティ・マネジメント	広報こしがや等を通じて、公共交通(鉄道、路線バス、タクシー)に関する問い合わせ先、駅前広場における路線バス乗り場やタクシー乗り場の案内、新規バス路線の開設や運行時刻等の変更などの情報を掲載し公共交通の利用促進について啓発を行っている。 また、広報こしがや季刊版(平成29年3月発行)に、「越谷市のまちづくりを支える公共交通を考えよう」との特集を組み、市内の公共交通の現状と課題、越谷市地域公共交通網形成計画の内容と取り組んでいる事業、路線バスの乗り継ぎ等について紹介するなど、市民の皆様の積極的な公共交通の利用促進について啓発を行っている。 さらに、平成29年度からは、越谷市職員等出張講座のメニューに「公共交通関連講座」を加え、公共交通の利用促進について市民の皆様への啓発を行った。 今後も、引き続き、様々な啓発活動を行い、公共交通の利用促進に努めて行く。	なし	○広報こしがや季刊版(平成29年3月)への公共交通関連特集の掲載:1回 ○公共交通関連講座等の実施回数 :1回	○公共交通関連講座等の実施回数 :1回

2 計画の中間評価について

計画の基本方針である「利便性が高く持続可能な公共交通網の形成」に向け、引き続き、計画に位置付けた実施事業の推進を図るとともに、本市においてもバス路線が休止となる状況が発生していることから、「バス路線を乗って・守り・育てる」ことの重要性について、市民の皆様への更なる啓発活動を行い、公共交通の維持・充実に取り組んでいくこととします。

3 計画に位置付けた目標の評価指標値について

計画では、評価指標値の確認について、最終評価年に実施するとしていますが、参考までに、平成29年度時点の評価指標値について確認しました。

乗合交通利用圏域の面積カバー率、公共交通の1日あたりの平均利用者数については、目標値を達成しておりますが、平成28、29年度は微増となっております。

また、公共交通の満足度については、減少している状況となっております。

なお、公共交通の満足度については、平成26年度に実施した「越谷市公共交通基礎調査」におけるアンケート調査を基に目標年の評価指標値を設定し、平成28年度以降の指標値については、市民世論調査結果から算出しており、サンプル数が、計画策定時と異なることから、目標値との乖離が大きくなっております。

引き続き、計画指標値を維持・向上させるために、各事業の具体化に向け、取組を行い、より一層、利用促進策等を考えてまいります。

評価指標の評価シート				
計画の目標	評価指標名	計画策定時	平成28年度	平成29年度
事業1: 地域に適した公共交通網を形成します	公共交通の満足度 (目標年 85%)	75%	65.80%	65.80%
事業2: 鉄道や路線バスの利用しづらい地域などのサービス改善を図ります	乗合交通利用圏域の面積カバー率 (目標年 増加)	71.20%	74.00%	74.90%
事業3: 公共交通を持続可能なものとするために、仕組み(体制やルール)をつくります	公共交通(鉄道、路線バス、乗用タクシー)の1日あたりの平均利用者数 (目標年 増加)	297,558人	306,209人	309,294人